

天生に息づく 飛鳥のロマン

止利伝説

「月ヶ瀬伝説」天の命を宿して

止利にまつわる伝承は「月ヶ瀬伝説」と言
われ、母となつた忍（しのぶ※信夫とも表記される）
という村娘の話から始まります。口伝のため
細部は異なることがあります。おおよその
内容は次のようなものです。

母子は山中で暮らし続けましたが、止利は
17歳で奈良の都へ上り、やがて立派な仏師に
なりました。また、忍が月影を飲んだ淵は、
月が映らなくなり、淵や周辺は月ヶ瀬と呼ば
れるようになりました。

止利にまつわる伝承は「月ヶ瀬伝説」と言
われ、母となつた忍（しのぶ※信夫とも表記される）
という村娘の話から始まります。口伝のため
細部は異なることがあります。おおよその
内容は次のようなものです。

世界最古の木造建築で、
日本の世界遺産登録第1号である法隆寺。
その金堂の釈迦三尊像（国宝）を造ったのが止利仏師です。
鞍作止利の名でも知られ、渡来人の一族とされていますが、
匠の祖と崇められています。

飛騨市河合町では、昔から止利が天生で生まれ育つたと伝わり、
1400年の時を超える不思議な伝説は、
何を物語るのでしょうか？

百姓の九郎兵衛の娘、忍は、両親とともに
天生峠の麓の小鳥川沿いに住んでいました。
両親は娘の結婚を願っていましたが、忍は
醜女で、両親も本人も、それが悩みでした。
村祭りの夜、忍は母があつらえてくれた着
物を着て家を出たものの、自分の顔を恥じ、
にぎやかな祭りの場へは行かず、川辺の淵に
たたずんでいました。川面は満月を映し、山
の方から飛んできた一羽の鳥が月
影に飛び込みました。それをぼ
んやりと眺めていた忍は、やが
て水に映った月影をそっと手
でくつけて飲み干しました。



都からの客人と聖徳太子像

忍は、止利が都に上る前に亡くなつたと言
われますが、後に止利が都に呼び寄せたとす
る説もあり、はつきりしません。また、天生
にはもう一つ、同時代の伝承があり、よく月ヶ
瀬伝説と一体化して語られます。天生伝説と
も言われる話です。

伐採させたのですが、切ろうとすると木から
血が噴き出したり、けが人が相次いだり、大
蛇が出たりと災難続き。村人たちはおびえ、
作業が進みません。困った多須奈は、いつた
ん都に戻り、聖徳太子に相談しました。する
と、太子は自らの姿をかたどった像を多須奈
に手渡され、それを祀つて木を切るようにと
おっしゃいました。多須奈は御像を持って再
び天生へ来て、太子のお言葉通りにしたと
ころ、災いはぴたりと收まり、無事に作業を
終えることができました。多須奈が太子から
渡された御像は、太子が16歳の時におつくり
になった自我像三体の内のひとつであつたと
いうことです。都へ帰つた多須奈は、寺や仏
像の建立などに尽力し、出家して僧侶にもな
りました。

さらに、法隆寺の釈迦三尊像の光背裏に刻
まれた「司馬鞍首止利佛師」という銘や多須
奈に関する情報、当時の時代状況などから推
察すると、多須奈と止利の話が一筋の糸でつ
ながります。

悠久の神秘と「飛騨の匠」

多須奈の父は、司馬達等という渡来人で、
一族は鞍部（鞍作）と称し、もともとは馬具
など、さまざまなものづくりに長けた技術集

団でした。朝廷の建築や工芸の計画に携わり、
佛教への信仰も厚く、佛教による国づくりを
目指した聖徳太子の下、寺院の建立や仏像づ
くりの中心的な役割を果たしていました。

飛騨は、その頃から木工を得意とする人々
を都に派遣するよう要請されていて、止利も
その一員として都に行き、多須奈の下で働い
たのかもしれません。経緯は想像するしかあ
りませんが、止利は多須奈の息子、達等の孫
とされ、鞍作止利として優れた仕事をし、名
を残しました。聖徳太子のために造つた法隆
寺の釈迦三尊像は、止利が唯一、名を記した
もので、卓越した技法や、厳しくも温かい母
性を感じさせる微笑が人々を魅了します。「日
本の仏工の祖」とも「匠の祖」とも言われる
止利は、当時、飛騨から都へ派遣された人々
にとつても、憧れの存在であったことでしょう。

奈良県橿原市には、かつて都の造営のため
に働いた飛騨の匠たちが暮した「飛騨町」の
地名が今も残っています。都と飛騨は大昔か
ら密接な関係にありました。聖徳太子や法隆
寺が思いのほか近く感じられる止利仏師の伝
説は、飛騨に生きる現代の私たちに、地元の
誇りやロマンを再認識させてくれるのではないか



聖生の
忍と母

その後、不思議なことに忍は身ごもりました。
九郎兵衛たちは困惑し、結局、忍は人里離れた
天生の山中で一人、子どもを産み育てました。
生まれた子は男の子で首が鳥のようだつたの
で、止利と呼ばれ、元気に成長していきました。
止利は小さい頃から不思議な力を發揮し、木を
彫つて人形を作ると、人形が人間のように動き
ました。その人形たちに田を造らせ、稲を植え
ると、一夜にして実り、脱穀した粒穀は風に飛
ばされて山になりました。

止利は小さい頃から不思議な力を發揮し、木を
彫つて人形を作ると、人形が人間のように動き
ました。その人形たちに田を造らせ、稲を植え
ると、一夜にして実り、脱穀した粒穀は風に飛
ばされて山になりました。

止利仏師伝説の里を訪ねて

河合町で止利仏師の研究をされる方々とゆかりの地を巡りました

悠久の時を超 語り継がれる匠の祖

「止利仏師の名は全国に知られていますが、生誕に関する伝承は、ここにしかないと思います。私が調べた限り、ほかには見つかりませんでした。私たちは子どもの頃から伝説を聞いて育ちましたし、地元には伝説ゆかりの地名などもたくさんあって、知れば知るほど、ここが止利仏師のふるさとだと確信が湧いてきます」と話すのは、



天生峠駐車場から天生湿原(天生県立自然公園)に向かう山道

飛騨市河合町元田に住む安達康重さん。平成のはじめ頃、「かわい夢らんど塾」という地域おこし活動をきっかけに止利仏師のことを調べ始め、現在は郷土史家として活躍している。

天生という地名自体、天から授かって生まれた子に由来するとされ、天生峠の駐車場から30分ほど山道を登ったところに広がる湿原は、昔、止利を身ごもった忍が村を離れ、ひとりで産んで育てた場所と言われている。また、そこから見える糲糠山は、母子の田んぼに実った稻の糊殻（糲糠）が吹き飛んで積もった山と伝わる。地元の仲間と一緒に、20年以上前から湿原のパトロールを行っている、天生高層湿原監視員代表の井之上豊秋さんは、「天生湿原は忍と止利親子の田んぼであったと言われ、田形とも呼ばれますし、家が建つたと伝わるところは、今も一段高い地形が残っていて、匠屋敷とか田形屋敷と呼ばれています」と話す。

屋敷跡には止利仏師を顕彰する

天正といふ地名自体、天から授かって生まれた子に由来するとされ、天生峠の駐車場から30分ほど山道を登ったところに広がる湿原は、昔、止利を身ごもった忍が村を離れ、ひとりで産んで育てた場所と言われている。また、そこから見える糲糠山は、母子の田んぼに実った稻の糊殻（糲糠）が吹き飛んで積もった山と伝わる。地元の仲間と一緒に、20年以上前から湿原のパトロールを行っている、天生高層湿原監視員代表の井之上豊秋さんは、「天生湿原は忍と止利親子の田んぼであったと言われ、田形とも呼ばれますし、家が建つたと伝わるところは、今も一段高い地形が残っていて、匠屋敷とか田形屋敷と呼ばれています」と話す。



天生湿原の匠堂で解説する安達康重さん

止利は飛騨人

伝承から確信へ

安達さんは、「止利仏師が飛騨で育ったと思われるのは1400年以上も前で、当時の記録や証拠はありません。また、伝説には不思議で信じ難い内容も多いです。それでも、この土地の人たちが代々語り継いできたことには、きっと何か真実があると思います」と語る。忍が止利を産んだとされる「産の瀬」など、伝説ゆかりの場所をあちこち探し求めて現地に足を運ぶと、場所の特徴が話とびったり合っていることに驚かされた。糲糠山にしても、実際に地質が柔らかいという。「もし

かしたら昔の人は、いろいろなことを分かっていて話を作ったのかかもしれません」と感心する安達さんは、止利の出生について、次のように推察する。

企画展 天生の森と止利仏師 —飛騨の匠の源流を追い求めて—

- 【内容】①匠の祖とされる止利仏師にまつわる資料、河合町に伝わる伝説をパネルなどで紹介
②展示「法隆寺金堂釈迦三尊像(3D出力したクローン文化財の原型)東京藝術大学 COI 抛点制作」
③ドローン映像「天生の森」を上映
映像曲は書き下ろし「飛騨天生の四季」(演奏:金木博幸/作曲:相馬邦子)
④河合村当時の止利仏師伝説に係わる活動を紹介

講演会

河合町に伝わる止利仏師伝説 ~古代ロマンに想いを馳せ、伝説を今に伝える~

9月4日(日) 10:00~ 小ホール(参加無料)

【講師など】安達康重氏(郷土史研究家)・田口理子氏(止利仏師伝説紙芝居:実演)

【動画上映】「ゆかりの地を訪ねて」・「天生の森」

止利仏師伝説ゆかりの地を訪ねてツアー

9月17日(土)・10月9日(日)【参加費】2,000円(ガソリン料、保険料込)【定員】各16名

【問合せ】飛騨市河合振興事務所 TEL.0577-65-2221 詳しくは飛騨市WEBサイトよ

主催:飛騨市 後援:飛騨市教育委員会 協力:飛騨・世界生活文化センター 指定管理者 飛騨コンソーシアム



井之上豊秋さん

「聖德太子堂跡」と揮毫された石碑

天生湿原には、飛騨の木を切る際の災いを鎮めるために、多須奈が聖徳太子から手渡された太子像が安置されていたのでしよう。太子像は平安時代に平清盛の病気平癪祈願のために摂津に移され、その後、糲余曲折を経て江馬氏が所蔵、今、飛騨市神岡町の常蓮寺に安置されているのが、そのお像ではないかと考えられています」と、安達さんは語る。

昔の太子堂の姿は謎だが、太子堂跡と言われる場所には地元の人たちが建てた小さなお堂があり、中には聖徳太子の絵が納められていました

天生湿原も、これから紅葉までの季節は行楽シーズン。井之上さんは、パトロール活動も忙しい。「秋の紅葉も素晴らしいので、風景だと思います。さまざまな動植物が息づく自然を傷つけないよう、そっと見せてもらつたり歩いて、環境を次代に残せるようを考え、行動していただきたいです」と、井上さんは呼びかけた。

ふるさとの宝物を

未来へ

9月4日(日)~18日(日)
10:00~16:00 入場無料

飛騨市文化交流センター ホワイエ(スピリットガーデンホール)
飛騨市古川町若宮2-1-63
※休館日 9/6, 9/12



東京藝術大学協力
岐阜県初展示!

止利仏師の制作した法隆寺金堂釈迦三尊像を、東京藝術大学と富山県の铸物や彫刻の技術者集団が「クローン文化財」として現代に蘇らせました。今回、その前段階の原型が岐阜県初として原寸展示されます!



法隆寺へ行かない見られない国宝が、クローン文化財の前段階の原型ではあります、原寸で四方から眺めることができます。圧倒的な迫力で、緻密な再現にも引き込まれます。またとないこの機会にぜひご来場ください。



飛騨の匠学会
柏木俊和さん